

生活面について

Q人と接することが好きで特に女性を見るとからだを触りに行きます。制止すると暴れて大変です。今後どう対応したらよいか気をつけることなどを教えてください。

A私たちは体の成長と共に性欲が発達していきます。恋愛や結婚をし、子どもが欲しいと思う感情は当然です。本人が性教育について学んだり、性のカウンセリングを受けるなど、社会的マナーについての知識を得ることも必要です。

予防的には、想定される場面から距離をおいておくなどの対応が懸命です。また、そのような行為を行い、制止により暴れるなどの行動に発展してしまった場合は、まずは気持ちの高揚を落ち着かせるような対応をとる必要があります。その後、してはいけないことは具体的かつ視覚的に説明をして伝えていくことが重要です。また、異性間のより望ましい行動を身につけさせるため、グループ活動に参加することも大切です。

「性的行為による社会的な善悪」については、説明しても理解することが難しい方もいます。対応が難しい方については、医療的ケアにより衝動的な行動をおさえるなどの、予防的な対応を試みることも有効な方法だといえます。

Q重度の障がいを持つ子どもの親です。親亡き後のケアについて教えてください。

A例えば、ケアホームなどによる少人数での支援方法が考えられます。医療的ケアが整備された環境の提供や、夜間の人員配置など、まだまだ課題を多く含んでいますが、個々の働きかけにより実現は可能であると思われます。他府県では、重度の障がいがある方が、ケアホームを利用して生活されているという例もあります。

「親亡き後」の不安を解消するには、介護や支援について社会全体で支えることが必要です。以前と比べれば、在宅福祉サービスは充実し、介護

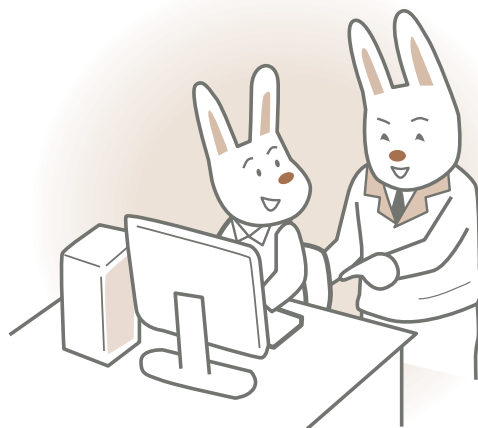
が社会化しつつあります。居宅介護事業^(注1)、地域生活支援事業^(注2)や、グループホーム^(注3)、ケアホーム^(注4)などの社会資源を充実し、社会全体での支援体制の構築が図られることが必要です。

Q将来、仕事をしていけるか心配です。自立に向けてどのようなことを身につけておけばよいでしょうか？

A「仕事」と言えば、技術面に気が向いてしまいがちですが、普段の生活の中で、いろいろな人と関わりを持つことで社会性を身につけることも大切です。

現在、多くの方が、仕事への定着が難しくなっている大きな原因に、社会性や対人関係がうまく築けないということがあげられます。対人関係でつまづかないためにも、他人と上手くコミュニケーションがとれるよう、社会との交流会などへ積極的に参加し、対人関係におけるスキルを身につけておくことも必要です。

就学中から職場実習などを多く経験しておくことも重要です。「仕事」のある生活に心身共に慣れる、新しい登場人物（上司、先輩等）との関係性を理解する、仕事の内容と本人の能力のマッチングを図るなど、社会に出るための不安をできるだけ少なくしておく準備が必要です。



Q 重度の障がいがあります。学校を卒業すると居場所が段々なくなり、その後の生活が不安です。どのようなサポートがありますか？

A 現在は、各障がい者支援機関にて、自立訓練事業^(注5)、生活介護事業^(注6)や地域活動支援センター^(注7)などにより、生活支援や創作活動が行われたりしています。また、サロン活動などの居場所づくりについても、各関係機関が積極的に活動し、新しい活動場所や社会資源づくりが行われており、様々な方面からのサポート体制づくりが展開されています。しかし、重度の障がい者の活動できる場所がまだまだ不足しており、新たな資源を開発することが望まれます。

各市町村には、障がい者の相談窓口があり、また市町村委託相談支援事業所^(注8)でも生活相談を行っています。相談支援専門員などが、生活全般のサポート体制について支援しています。個別のケアプランを作成するなど、一人ひとりの障がい特性に合った対応が行われています。同じ悩みを持つ子どもの親の会や、地域生活支援センターなどに積極的に出掛けてみましょう。

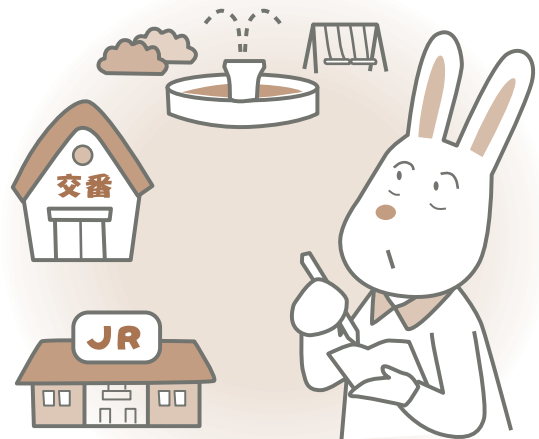
行動面について

Q 親の知らない間に一人で外出してしまい、行き先が分からなくなります。どうすればよいでしょうか？

A 無断で外出してしまう行動については、日常から気になっていることを達成したいという気持ちから衝動的におこる可能性もあります。家族や支援者が、日常から本人の気持ちを理解、察知し、ストレスにならないような配慮が必要です。

外出してしまう行動については、日常からよく把握しておき、駅や警察、地域住民などによく連携をとる必要があります。緊急時の対応についても、迅速に機能するような地域ケアシステムづくりも必要です。

- (注1)入浴・排泄・食事の介助など、在宅生活における介護サービスを行います。
- (注2)市町村及び都道府県が地域の特性や利用者の状況に応じて柔軟に実施するサービスです。
- (注3)地域にある住宅において、数人の障がいのある人が共同で生活する形態で、専任の世話人によって、食事や日常に必要なサービスの提供や、相談を行います。
- (注4)グループホームの対象となる人よりも介助の必要な人に、相談その他日常生活の介助を行います。
- (注5)身体・知的・精神障害のある人に対し、自立した日常生活又は社会生活を営むことが出来るよう、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練等を行います。
- (注6)常に介護を必要とする障がいのある人に対し、主に日中に障害者支援施設等で行われる入浴・排泄・食事等の介護や創作的活動・生産活動等の支援を行います。
- (注7)障がいのある人等を通わせ、地域の実情に応じ創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等に便宜を供与する地域活動支援センターの機能を充実・強化することにより、障がいのある人等の地域生活支援の促進を図ることを目的とする事業です。
- (注8)障がいのある人等からの相談に応じ、必要な情報の提供等の便宜を供与することや権利擁護のために必要な援助を行うことにより、障がいのある人等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにすることを目的とする事業です。



《コラム》

○保護者 本人の声

①就労に向かって

長男は、中学二年生頃から不登校になり、精神や心の健康を害するようになりました。根気が続かず、自己中心的で、対人関係を築く事が出来なくなり、その為が暴力的になり、種々の精神症状も出現し、入院も致しました。

高校卒業後、就職活動するも、面接等で病気の人は……と言われてたりして就職に結び付くことはありませんでした。その社会的偏見などで本人は、傷つき、悩み、怒ったりして不安定な日々が続きました。適切な対応もできず、辛い毎日が続きました。

この頃、何度か相談に乗って下さっていたソーシャルワーカーさんより、障害者授産施設を紹介されましたが、本人がその気になって通所するまでには長い時間がかかりました。

研修期間も施設では、種々の状態の人達がおられたので、利用者の人達を理解できず、帰宅すると毎日文句を言ったり怒ったりしておりました。親としては、子供の話をしっかりと聞いてやり、その気持ちや感情を受け止めることしか出来ませんでした。長男の言動に問題がある時も、取りあえず話を聞き、気持ちが落ち着いた頃にゆっくりと諭しました。時間がかかりましたが次第に、みんなの事も理解しようと努力するようになり、友人も出来ました。少しずつではありますが社会性が身に付いて参りました。

施設では、自分という存在を認めてもらっている、居場所がある、と言う事が本人の自信につながったようです。まだまだ課題が残っているものの、施設の人達と共に仕事をしていく中で、互いに理解し合い成長し合っていると思います。又、そんな本人に地元の方が声をかけて下さり、子ども会の野球チームのお手伝い等の活動を通して、多くの人々と出会うことが、本人の気持ちを高める事に繋がっていると思います。

それでも時々、今でもいろいろな人達と思いがぶつかり合い、その都度親としてどう接していくか試行錯誤の毎日ですが、決して今の状態に甘える事なく、コツコツと今なすべき事を積み重ねていくしかありません。

今日も、彼のことを一人の人間として尊重して下さるスタッフの皆様を支えられながら、少しずつではありますが、就労という目標に向かって歩んでおります。
(21才 男性の保護者)

②夢が叶った！

僕は養護学校を卒業して就職しました。

一般企業では四月から仕事をしています。

養護学校の先生は、何度も何度も会社へ実習させてくれました。

仕事は難しかったですが頑張りました。

みんな親切にしてくれました。

三月に試験を受けました。

面接は挨拶や返事をしっかりしました。

「うちの会社で働いてください」と言われた時はうれしかったです。

(18才 男性本人)

③体が動く限り働きたい

小さな頃から体の右側にマヒがありましたが、職業安定所(今のハローワーク)を通じて20才頃からバスで40分かけて、靴下関係の会社に通っていました。その頃はまだ症状が軽かったので、自分一人でほとんどのことが出来ました。15年勤めて、年と共に症状がひどくなり、また、会社も経営状態が悪くなり、辞めざるを得なくなり退職しました。

しばらく家にいましたが、仕事がしたくて、福祉課に相談に行くと、作業所を紹介してくれました。そこで、さをり織りに初めて出会い、すぐにとりこになりました。

動きづらい足でも、座ったままで、きれいな作品を仕上げる事ができます。それから、ずっと、さをり織りを続け、今では私の作品に注文まで来るようになりました。

それでも、昔、会社にいた頃より、給料(工賃)は、とても少ないですが、障害者年金を合わせた額で、節約して暮らしています。
(52才 女性本人)